上島町消防だより

ご存知ですか？ 野焼きの禁止について

皆さんが、生活環境・地域環境の整備及び農作業などのために「たき火」を行うときは、火事にならないよう注意していると思います。

しかし、火災予防以外にも注意を払わなければならない問題があります。

「たき火」は、言い換えると「野焼き」とも言いますが、野焼きは「廃棄物の処理及び清掃に関する法律」で平成13年4月より、次に記載する『例外』を除いては、全ての人を対象に禁止となっています。

『例外』…次に掲げる場合を除いて廃棄物を焼却する事は禁止となっています。

- ○国又は地方公共団体が施設管理を行うために必要な廃棄物の焼却
- ○災害の予防、復旧対策のために必要な廃棄物の焼却
- ○風俗習慣上や宗教上の行事による焼却。（とんど焼き等）
- ○農林漁業を営むためのやむを得ない焼却。
- ○暖をとるためのたき火や日常生活上の廃棄物の焼却で軽微なもの。

例外となっているものについても煙や臭いが近所迷惑にならないように配慮し、ダイオキシン発生の原因となるプラスチック類の焼却は止め、環境に対する配慮も忘れないようにしましょう。

焼却以外にも適切な処理方法がある場合には、安易に焼却するのはひかえるようにしましょう。

ちなみに消防は、火災の発生危険があると認めた場合には、消防法により、たき火等の中止を命ずることができることとなっています。

空気の乾燥や強風により火災の発生する危険が高い場合は、たき火等の中止をお願いします。

また、火災と間違えるような火や煙を出す場合には、消防署への届け出をお願いします。

平成17年度全国統一防火標語

あなたです 火のあるくらしの 見はり役

■消火器の正しい使い方

火災が発生した場合に、すばやく消火し被害を最小限にとどめることができれば不幸中の幸いといえるでしょう。

万一のために消火器はいつでも使えるところに置いておき使い方を覚えておきましょう。

①安全栓を引き抜く

②ホースを外し火元に向ける
③レバーを強くにぎる

消火に夢中になり、避難のタイミングを失わないことが大切です。

天井に火が回ったら消火器での消火はできません。

すぐに避難をしてください。

■消防装備の紹介「防火服」

上衣とズボンで構成されたものが主流で燃えにくい素材の多重構造となっています。

注意：火の中には飛び込めません。

農業講座 しまなみ農業だより

ホウレンソウ栽培のポイント

ホウレンソウは周年、店先に出回りますが、冬に最も栄養価が高くなります。シュウ酸が多く含まれ腎臓結石を助長するといわれますが、茹でることによりシュウ酸は溶け出し安全ですし、毎日たくさん食べない限り心配はありません。今回は秋から冬にまくホウレンソウの栽培の注意点について解説します。

■栽培作型

ホウレンソウの生育適温は15～20℃とやや低く、夏は栽培が難しいですが、耐寒性は強く秋から春にかけて露地栽培ができます。晩秋から冬は病害虫の発生が少なく栽培しやすい時期となりますが、栽培時期に合った品種を選ぶことが重要です。

表　ホウレンソウの主要作型

播種時期	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月
9月中旬から9月下旬			○	………	■■							
10月上旬から10月中旬				○ ……	■	■■						
10月下旬から11月下旬				○ ……	○	……	■■	■■■				
1月							○ ……	……	■■■			

○種まき　■収　穫　　注）品種、畑の条件により収穫時期は前後します。

■畑の準備

ホウレンソウは酸性土壌に最も弱い野菜であるため、あらかじめ苦土石灰または消石灰を10m²（約３坪）あたり２kg、さらに完熟堆肥20kgを同時に土に混ぜておきます。石灰類を入れて１週間後に化成肥料（窒素15%）10kgを土とよく混和し、畝たてを行います。ホウレンソウは湿害に弱いため排水の悪い畑では、畝を高くしておきます。

■種まき

種まきは、バラまきもできますが、間引きなどの管理から条まきがよいと思います。まく条の間隔は23cmで２条または４条に、種は２～３cm間隔とします。種まきは浅くまき、溝をつけて種を落し、種がかくれる程度に土をかけ、ジョロなどで水をかけた時に種が表面に出ないように発芽するまでは土の乾きに注意し、丁寧に水をやります（発芽まで７～10日間）。雑草が生えやすい畑では、畝上に黒マルチを行い８cm間隔に３cm径の穴に種まきをします（３～５粒）。

■発芽後の管理

発芽して込み合っているところは、間引き（苗を抜き取る作業）を行い、株の間隔は本葉２～３枚までに５cm、本葉５～６枚のときに８～10cmにします（もったいないようですがこれをやらないと株が大きくなりません）。また、生育が悪い時（葉が小さい、葉の色が薄いなど）は追肥として化成肥料を少量、株付近にまきます。雨が少なく、土が乾くようであれば株元に水をやってください。

■病害虫防除

秋から春の間に発生する主な病害虫は、べと病、ヨトウムシ、シロオビノメイガ、アブラムシなどがあります。種まきが早い作型ほど発生しやすく、立枯病なども発生しやすくなります。

○べと病の被害は、葉にぼんやりとした斑点ができます。アリエッティ水和剤1500倍を葉裏から丁寧に散布します。

○シロオビノメイガの被害は、葉を薄皮を残して食べます。ヨトウムシ、ネキリムシの被害は、葉を片っ端から食べたり、株元から食いきります。薬剤はＤＤＶＰ乳剤1000倍、アグロスリン乳剤2000倍を散布します。

○アブラムシは、株の中心に発生しやすく、発生を確認したらアドマイヤーフロアブル4000倍、ＤＤＶＰ乳剤1000倍を散布します。

■収　穫

株の高さが20cm程度になれば収穫適期です。収穫方法は抜き取るか地際から刃物で刈り取り収穫します。